

平成23年における クレーン等による死亡災害発生状況

1. 平成23年の死亡災害発生状況

平成23年における全国の労働災害による死亡者数は2,338人であるが、東日本大震災を直接の原因とする災害を除くと、1,024人で前年と比較して171人（対前年比14.3%）減少した。これを業種別にみると、建設業では342人と前年と比較して23人（対前年比6.3%）減少し、製造業では182人と前年と比較して29人（対前年比13.7%）減少した（図1参照）。

2. クレーン等による死亡災害の推移

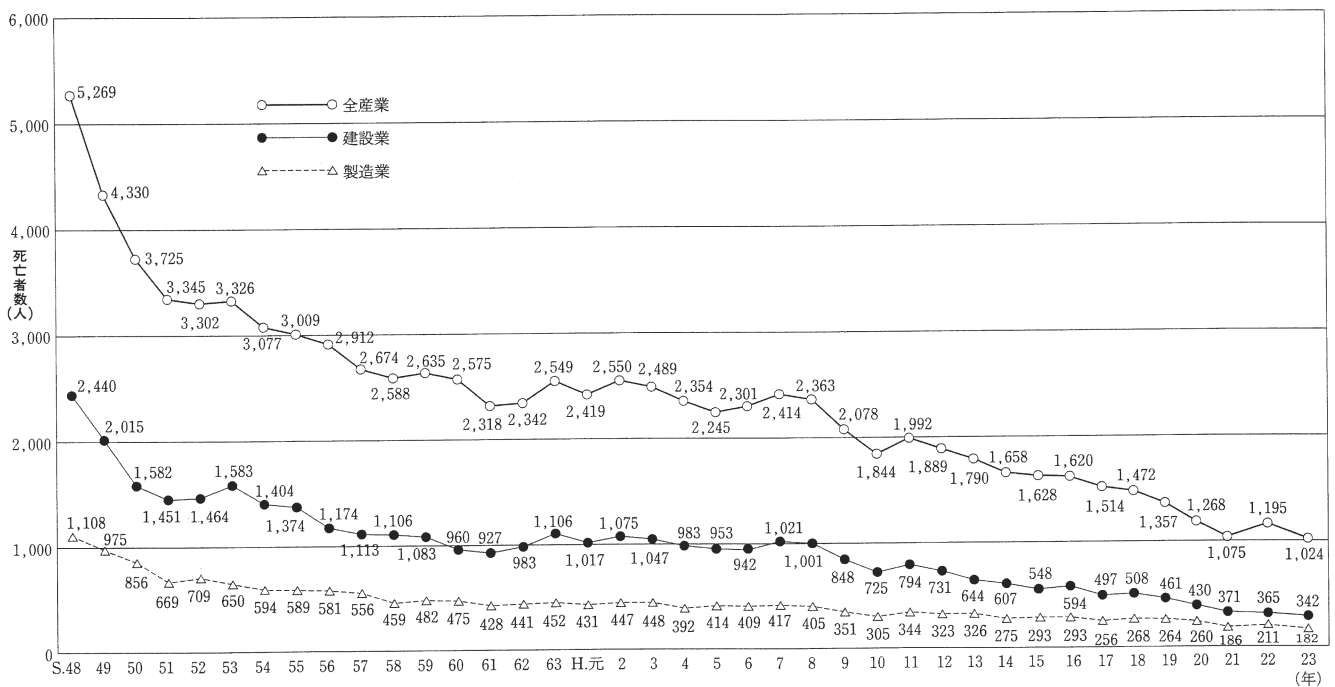
平成23年におけるクレーン等に関する労働災害による死亡者数は67人で、平成22年に比

べ9人（対前年比11.8%）の減少となった（図2参照）。

業種別に見ると、建設業が最も多く28人（クレーン等に関する労働災害による全死亡者数の41.8%）、次いで製造業25人（同37.3%）、その他の事業9人（同13.4%）、陸上貨物運送業5人（同7.5%）となっている。前年に比べ陸上貨物運送業で1人増加し、製造業とその他の事業は4人減、さらに、建設業と港湾荷役業で1人減となっている（表1参照）。

3. 業種別・機種別発生状況

平成23年のクレーン等に関する死亡災害発生状況を業種別・機種別にまとめたものが表1である。機種別では、クレーンによる死亡災害



注）平成7年分については、阪神・淡路大震災を直接の原因とする死亡災害（64人）及び地下鉄サリン事件による死亡災害（2人）を含んでいる。

図1 労働災害死亡者数の推移

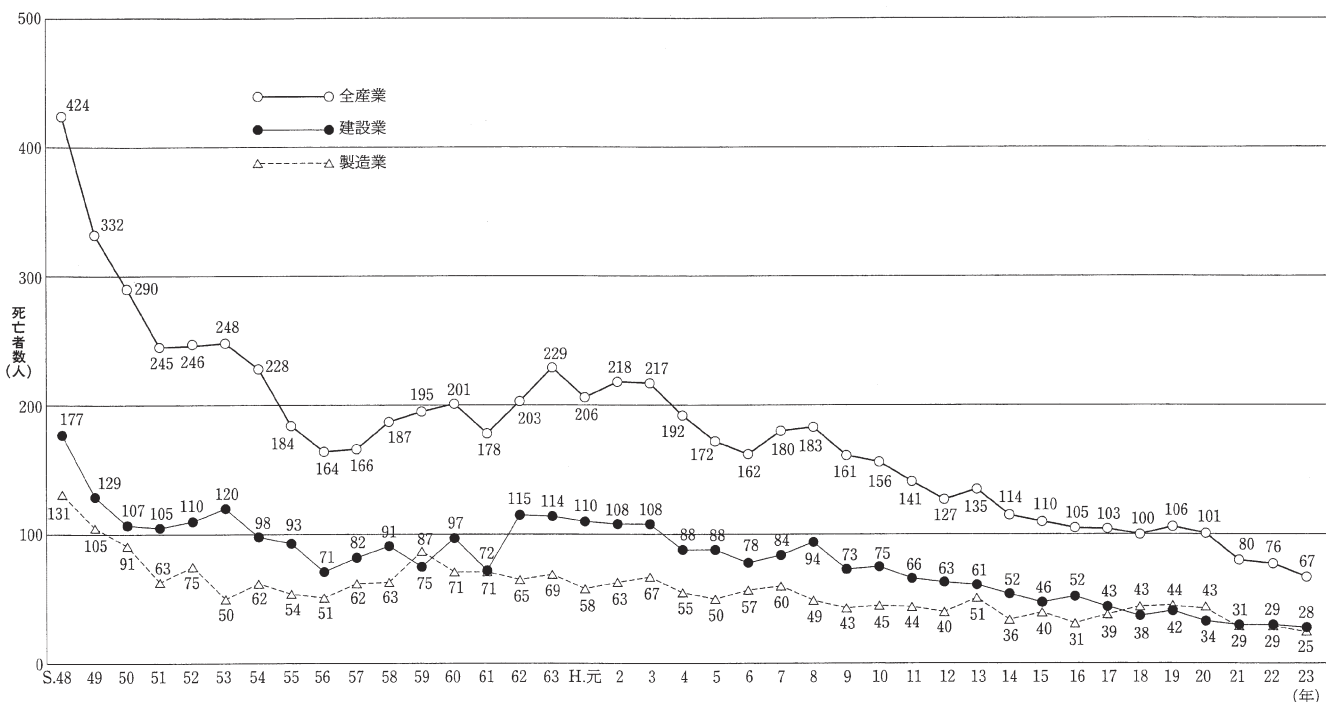


図2 クレーン等による死亡災害の推移

が30人（クレーン等に関する死亡災害全体の44.8%）、移動式クレーンによる災害が22人（同32.8%）で、両者合わせて全体の77.6%を占め、次いで、エレベーターによるものが11人（同16.4%）となっている。前年と比較すると、クレーンによるものが3人減少し、

移動式クレーンによるものが15人と大幅に減少したものの、デリック及びゴンドラによるものはそれぞれ1人増、エレベーターによるものは7人増と大幅な増加を示した。なお、簡易リフトと建設用リフトによるものは前年と同数であった（建設用リフトは3年連続0人）。

表1 クレーン等による業種別・機種別死亡災害発生状況（平成23年）

業種	クレーン						移動式クレーン				デリック	エレベーター	簡易リフト	建設用リフト	ゴンドラ	合計	
	天井クレーン	橋形クレーン	ジブクレーン	テールハ	スタッククレーン	ケーブルクレーン	小計	トラッククレーン	車両積載形	トラッククレーン							ホイールクレーン
製造業	16	5					21		1		1	2		2			25
鉱業																	
建設業	2		3			1	6	4	3	5	2	14	1	5	1	1	28
交通運輸事業																	
陸上貨物運送事業									2	1	1	4		1			5
港湾荷役業																	
その他の事業		2			1		3		2			2		3	1		9
合計	18	7	3		1	1	30	4	8	6	4	22	1	11	2	1	67

表 2 クレーン等による現象別・機種別死亡災害発生状況（平成23年）

現象	機種	クレーン					移動式クレーン					エレベーター	簡易リフト	建設用リフト	ゴンドラ	合計		
		天井クレーン	橋形クレーン	ジブクレーン	テルハ	スタッククレーン	ケーブルクレーン	小計	トラッククレーン	車両積載形トラッククレーン	ホイールクレーン						クローラクレーン	小計
落	つり荷の落下によるもの	5	4					9	2	1	1	1	5					14
	機体の落下によるもの																	
	搬器の落下によるもの														1			1
	ジブの落下によるもの																	
	積み荷等荷の落下によるもの																	
その他																		
小計		5	4				9	2	1	1	1	5			1			15
下	つり荷, つり具が激突したもの			1		1	2				1	1		1				4
挟	つり具, つり荷と床上の物体によるもの	3		1			4											4
	つり荷の転倒によるもの	4	2				6			1	1							7
	床上の物体の転倒によるもの								1	1		2						2
	機体(搬器)と他の構造物によるもの	1					1	1	1	1	2	1	7	1				12
	機体にひかれたもの								1	1	2							2
圧	機体に接触したもの	1		1			2	1		1	2							4
	その他																	
	小計	9	2	2			13	1	3	3	2	9	1	7	1			31
墜	機体(搬器)からによるもの				1		1						1					2
	つり荷に押されたもの																	
	機体(搬器)と共に墜落したもの	2					2			1	1					1		4
	作業床等から墜落したもの	1	1				2		1	1	2		2					6
	その他																	
小計	3	1			1	5		1	2	3		3				1		12
機体, 構造部分が折損, 倒壊, 転倒したもの								1	3		4							4
感電	1						1											1
その他																		
合計		18	7	3		1	1	30	4	8	6	4	22	1	11	2	1	67

機種細分別では、天井クレーンによるものが最も多く（18人）、続いて、エレベーターによるもの（11人）、車両積載形トラッククレーンによるもの（8人）、橋形クレーンによるもの（7人）、ホイールクレーンによるもの（6人）、トラッククレーン及びクローラクレーン（含；クレーン機能付きドラグショベル）によるもの（4人）、ジブクレーンによるもの（3人）の順

に多い。前年と比べると、クレーンでは天井クレーン及び橋形クレーンによるものはそれぞれ1人増加し、テルハによるものが3人減、ジブクレーンによるものが2人減少となっている。一方、移動式クレーンでは、トラッククレーンによるものが4人増加したが、クローラクレーンによるものが7人減、車両積載形トラッククレーンによるものが6人減少と大幅に減少した

のと、ホイールクレーンによるものは3人減少であった。

業種との関係を見ると、クレーンによるものは製造業が21人（クレーンに関する死亡災害の70.0%）と最も多く、移動式クレーンによるものは建設業が14人（移動式クレーンに関する死亡災害の63.6%）と最も多くなっている。前年と比べてみると、製造業では、クレーンについては、ジブクレーンによるものが4人減、テルハによるものが2人減、橋形クレーンによるものが1人減少し、天井クレーンによるものは前年と同数となっている。建設業では、移動式クレーンによるもので11人と大幅に減少したが、クレーンによるもので5人増、エレベーターによるもので2人増、デリックと簡易リフト及びゴンドラでそれぞれ1人増加したことにより、全体では1人の減少となった。

4. 現象別・機種別発生状況

平成23年のクレーン等に関する死亡災害を災害現象別・機種別にまとめたものが表2である。

災害現象別では、多い順に、つり荷等の挟圧によるものを原因とするもの31人（クレーン等による死亡災害全体の46.3%）、つり荷等の落下によるもの15人（同22.4%）、墜落によるもの12人（同17.9%）、つり荷・つり具が激突したものと及び機体、構造部分が折損・倒壊・転倒したことによるものがそれぞれ4人（同6.0%）の順となっている。

前年と比べると、つり荷等の挟圧によるものが9人増の大幅な増加を示し、つり荷等の落下によるものが8人減、機体、構造部分が折損・倒壊・転倒したことによるものが6人減、つり荷・つり具が激突したものが4人減少しているが、その他の現象によるものには大きな変化は見られない。

現象別に災害の内容をさらに詳しく見ると、次のとおりである。

(1) つり荷等の落下による災害

つり荷等の落下による災害の中では、つり荷の落下によるものが14人（つり荷等の落下によ

る死亡災害全体の93.3%）で大きな割合を占めている。

表3にはつり荷の落下による災害および機体等の折損・倒壊・転倒による災害をさらに詳細に分類している。前年と比べると、玉掛けワイヤロープ等からつり荷が外れたことによるものが2人増加したが、クレーンのフック等から玉掛けワイヤロープ等が外れたことによるものが5人減少、玉掛けワイヤロープ等の切断によるものが2人減少、その他が4人減少となり、つり荷の落下全体では9人の減少となった。

(2) つり荷等による挟圧災害

つり荷等による挟圧災害では、表2に示すように、機体（搬器）と他の構造物によるものが12人、つり荷の転倒によるものが7人、つり具・つり荷と床上の物体によるものと及び機体に接触したものがそれぞれ4人、床上の物体の転倒及び機体にひかれたものがそれぞれ2人の合計31人となり、前年の23人に比べ9人の大幅増加となった。

(3) 墜落による災害

墜落による災害では、作業床等から墜落したものが6人（墜落による災害全体の50.0%）、機体（搬機）と共に墜落したものが4人、機体（搬機）からによるもの2人の計12人となり、前年の11人より1人増加した。

(4) 機体等の折損・倒壊・転倒による災害

表2に示すようにこの種の災害によるものは4人である。その内訳は表3に示すように、移動式クレーン（機体転倒が3人、支柱・脚が倒壊したものが1人の計4人）が全てで、クレーンに係るものは皆無であった。前年も、移動式クレーンに係るもののみで、機体転倒が9人、ジブが折損・倒壊したものの1人の計10人であったので、6人の減少となった。

(5) つり荷等の激突による災害

表2に示すように、つり荷・つり具が激突したことによるものは4人であり、クレーンに係るもの2人、移動式クレーンに係るもの1人、エレベーターに係るもの1人であった。前年に比べるとクレーン及びエレベーターに係るものはそれぞれ同数であるが、移動式クレーンに係るものが4人減少したことによって、計4人の

表 3 つり荷の落下及び機体等の折損・倒壊・転倒による災害の内訳（平成23年）

現象		機 種	クレーン					移動式クレーン					デ リ ッ ク	エ レ ベ ー タ ー	簡 易 リ フ ト	建 設 用 リ フ ト	ゴ ン ド ラ	合 計
			天 井 ク レ ー ン	橋 形 ク レ ー ン	ジ ブ ク レ ー ン	テ ル ハ	ス タ ッ カ ー ク レ ー ン	小 計	ト ラ ッ ク ク レ ー ン	車 両 積 載 形	ト ラ ッ ク ク レ ー ン	ホ イ ー ル ク レ ー ン						
つり荷の落下	ワイヤロープ等の切断	巻上げワイヤロープ等の切断によるもの									1							1
		玉掛けワイヤロープ等の切断によるもの																
		クレーンのフック等から玉掛けワイヤロープ等が外れたことによるもの		1														1
		玉掛けワイヤロープ等からつり荷が外れたことによるもの	4	2								1		2				8
		クレーンのフック等からつり荷が外れたことによるもの										1		1				1
		クレーンのフック等が破損したことによるもの																
		その他	1	1									1					3
	小 計	5	4									5					14	
折損・倒壊・転倒		ジブが折損，倒壊したもの																
		支柱，脚等が倒壊したもの										1					1	
		機体が転倒したもの									1	2		3			3	
		その他																
	小 計										1	3		4			4	
合 計		5	4								9	3	4	1	1		9	18

表 4 クレーン等による機種別・能力別死亡災害発生状況（平成23年）

項目		機 種	クレーン					移動式クレーン					デ リ ッ ク	エ レ ベ ー タ ー	簡 易 リ フ ト	建 設 用 リ フ ト	ゴ ン ド ラ	合 計	
			天 井 ク レ ー ン	橋 形 ク レ ー ン	ジ ブ ク レ ー ン	テ ル ハ	ス タ ッ カ ー ク レ ー ン	ケ ー プ ル ク レ ー ン	小 計	ト ラ ッ ク ク レ ー ン	車 両 積 載 形	ト ラ ッ ク ク レ ー ン							ホ イ ー ル ク レ ー ン
能力内容	1 t 未 満														3	1		1	5
	1 t以上 3 t未満	8	1	1		1	1	12	3	8		2	13	1	6				32
	3 t以上 5 t未満	2	2					4							2				6
	5 t以上 10 t未満	1	2					3											3
	10 t以上 20 t未満	2	2	1				5			2		2						7
	20 t以上 30 t未満	2		1				3			2	1	3						6
	30 t 以 上	3						3	1		2	1	4						7
	不 明																1		1
合 計		13	7	3		1	1	30	4	8	6	4	22	1	11	2	1	67	

減少となった。

5. 能力別・機種別発生状況

平成23年のクレーン等に係る死亡災害を能力別・機種別にまとめたものが表4である。

全機種合計では、1 t 以上 3 t 未満の能力のものが32人（クレーン等の災害全体の 47.8%）

と大きな割合を占めている。

この区分の中では、天井クレーン及び車輛積載形トラッククレーンによるものがそれぞれ8人で最も多く、次いで、エレベーターによるものが6人となっている。ほかには、10 t 以上 20 t 未満のクレーンによるものが5人、30 t 以上の移動式クレーンによるものが4人などとなっている。

